

第64回例会

「質的研究」は何を目指すか

—フッサール現象学の原理から—

稲垣 みどり (東京国際大学)

申し込み不要

■ 日時 ■

2019年11月16日 (土) 16:00~18:00

■ 会場 ■

早稲田大学早稲田キャンパス22号館502号室

参加費無料

本例会では、「質的研究」のそもそもの意味と価値について、質的研究の理論の源流の一つであるフッサール現象学の原理を紹介しつつ、参加者の皆様と考えてみたいと思います。「主観的」と「客観的」って、そもそもどういうこと？「実証的」の意味するところは？科学的で実証的なデータって、何？というようなことからディスカッションを始め、じゃあ何のための「質的研究」なのか、その意味と価値について考えます。私、稲垣は日本語教育学のライフストーリー研究の意味と価値を考えめぐねて、哲学と現象学の道に足を踏み入れ、そこに大なる質的研究の光と可能性を見出しました。そういう私の経験談と、現象学の原理から私が学んだこともお話しします。ですがメインは私のレクチャーではありません。日本語教育、外国語教育、その他何でも、質的研究、研究一般について興味ある方と「質的研究」について話し合い、研究って、そもそも何のため？何をを目指すのか？日頃の疑問をぶつけ合い、議論する会にしたいと思います。大学生、院生歓迎です。どうぞご参加下さい。



稲垣みどり プロフィール

中学、高校の国語科学校教員を経てアイルランドに渡り、10年以上高校と大学で日本語を教える。帰国後、博士号(日本語教育学)取得。現在は大学で多国籍の留学生対象に日本語を教えている。

問い合わせ先:言語文化教育研究学会

企画委員 Email: project@alce.jp

